

週 報

「信じます。

不信仰なわたしを、
お助けください」。

(マルコによる福音書第9章24節)



人と神、人と人をつなぐ難しい働きをしています
日本基督教団 西宮公会教会

〒662-0834

兵庫県西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691

FAX 0798-63-4044

郵便振替 01170-3-4901

ホームページアドレス

<http://www.koudou.jp/>

電子メールアドレス

koudou@gamma.ocn.ne.jp

小さな手大きな手

バーバラ・クーニーは、「にぐるまひいて」(著:ドナルド・ホール、画:バーバラ・クーニー、訳:もき かずこ/ほるぷ出版、1980年)と「チャンティクリアときつね」(文・画:バーバラ・クーニー、訳:ひらの けいいち/ほるぷ出版、1975年)で、2度のコルデコット賞を受賞したアメリカの絵本作家です。いずれも、自分たちの生活のすべてを、自分たちで造り出す、北米の「開拓者」及び、それが背景になった物語です。それは「もう帰らない古き良き時代のアメリカの暮らしぶり」がとても良く描かれています。

今、そのアメリカは、「アメリカ暴力世紀/第二次大戦以降の戦争とテロ」(ジョン・ダワー、岩波書店)をそのままに、戦争とテロの暴力行使に明け暮れています。

NATO 軍の中核として、ロシアによるウクライナ戦争の「引き金」となり、イスラエルによるパレスチナ・ガザ戦争では、その戦争の装備などすべてにおいて支援し、そして今、そのイスラエルの何よりの野望であるイラン戦争の中核を荷っているのも、アメリカです。

たとえそうであったとしても、決して色あせることのないのが、バーバラ・クーニーの子どもの本の仕事です。

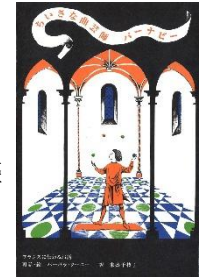
たとえば、「にぐるまひいて」は、「もう帰らない古き良き時代のアメリカの暮らしぶりをしのばせてくれる」だけではなく、たとえば5月、「…みんなは、じゃがいもや かぶや キャベツを える。りんごの はながさいて ちり、 みつばちは めを さまして またみつを つくりはじめる」は、「人間は生きものであり、自然の一部である」、命あるものとしての営みは、「古



き良き時代」のものではなく、その時代も、今も、これからも変ることのない営みです。

遠く隔たったところで起こっている、極限の暴力による破壊を、当事者たちがくつろいでながめ感想を述べる感覚もまた、人間の営みであるのは事実であるとしても、にぐるまひいてあるく「古き良き時代のアメリカ」が、描かれて今に残されているバーバラ・クーニーの「にぐるまひいて」を消し去ることはできないのです。

そんな、バーバラ・クーニーの絵本の仕事の一つが「ちいさな曲芸師 バーナビー フランスに伝わるお話」(再話・絵:バーバラ・クーニー、訳:末盛千枝子/現代企画室、2016年)です。



早くに母を亡くし、曲芸師だったお父さんがバーナビーに教えてくれたのは曲芸でした。「…バーナビーは曲芸をし、歌って踊って、お金をもらっていました。跳んだりはねたり、ボールを空中にバランスよく投げたりすることは誰よりも上手でしたが、ほかのことは何も知りませんでした。本を読むことも知りませんでした。お父さんが教えてくれたこと以外は何も知りませんでした。そのお父さんが死んでしまった後の冬、バーナビーはお金もかせぎにくくなり、出会った修道士のさそいで、修道院で生活することになりました。でも、曲芸しかできないバーナビーには、修道院での仕事は何もありませんでしたし、そんな自分を修道院の聖母子像の前で「いっそ、生まれてこなければよかった」とさえ思っていました。



(次週につづく)